

# おきなわ



作品名:「夕日のシルエット」(平成24年度かりゆし美術展 写真の部 銅賞)  
 撮影者:勝連栄公さん(那覇市)

## 目次

- ② 特集「民生委員・児童委員活動から見た地域の福祉課題」
- ④ 歳末たすけあい募金配分決定
- ⑥ 国外研修派遣事業の案内
- ⑦ シリーズ活動最前線  
「NPO法人サポートセンターゆめさき」
- ⑧ かりゆし地域福祉実践セミナー
- ⑨ CSW研究会と在介協が意見交換
- ⑩ 社会的養護児童の免許取得費を減免
- ⑪ 県民児協役員の改選について
- ⑫ 第5回沖縄ねりんピックかりゆし美術展
- ⑭ 資質向上につながるスキルアップ研修
- ⑮ 介護福祉士等修学資金貸付内容が拡充
- ⑯ インフォメーション、寄付者芳名 他

広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。



沖縄県社会福祉協議会  
 沖縄県福祉人材研修センター  
 沖縄県共同募金会

〒903-8603 那覇市首里石嶺町4-373-1  
 (県総合福祉センター内)  
 TEL:098-887-2000 FAX:098-887-2024  
 ホームページ <http://www.okishakyo.or.jp/>

# 特集

## 民生委員・児童委員活動から見た地域の福祉課題

沖縄県社協では、平成24年から事務局内にプロジェクトチームを設置し、民生委員・児童委員活動から見た地域の福祉課題に関する調査研究活動を行った。今号では、その調査結果概要を報告する。

### 調査概要

平成24年12月から1月にかけて、県内の全ての民生委員児童委員に協力を依頼し、38市町村民児協1,263名から回答を得た。回答率は60・0%だった。

### 地域の中で気になっている福祉ニーズ・福祉課題はありますか。

「高齢者分野」が最多、一人暮らし高齢者に関する記述が目立つ

福祉ニーズ、福祉課題として一番多かった回答は「高齢者分野」で全体の33・2%を占めた。その中でも

高齢者を気に掛ける人がいない等の問題により、孤立死等を心配する声も挙げられた。

「不登校・引きこもり」への対応で悩み

全体の15・2%を占めた「児童分野」では「不登校・引きこもり」が課題として多く挙げられた。学校との連携で困っているケースや民生委員・児童委員としてどこまでかかわるべきかについて悩むケースも見られた。

また、10代の若年女子による出産の増加や、両親の離婚等による家庭環境の複雑さ、ネグレクト（養育放棄）が疑われるような養育能力に欠けた保護者の存在が多く挙げられた。

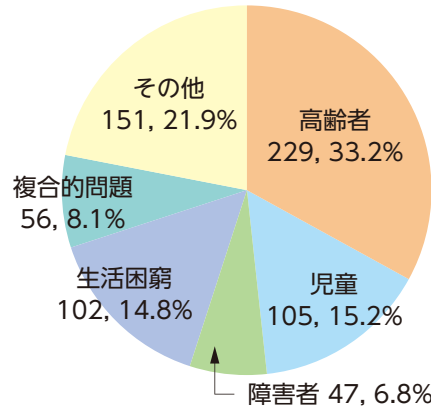
経済的困窮を起因とする生活課題が多数

「生活困窮分野」は全体の

民生委員活動上の悩み・戸惑いの声も

「その他」に分類した課題で多かったのは、民生委員・児童委員活動を行う上での悩みが多く見られた。複雑化する課題への対応について「民生委員・児童委員としてどこまで関わっていけば良いのか」といった率直な疑問や、個人情報保護を理由に住民の情報を把握することが困難となっている現状等が挙げられた。また、人口の流動化によって移住者の多い都市部を中心に住民との接点が持ちにくいとの声も多くあった。

分野別 福祉ニーズ・福祉課題の件数及び割合



回答は「高齢者」、「児童」、「障害者」、「生活困窮」、「複合的問題」、「その他」の6分野から選んだうえで、その詳細を記述してもらった。合計690件の回答が寄せられた。

### よく連携する相談機関・支援機関はどこですか。

「市町村社協」が最多、自治会、地域包括支援センター等も多い

民生委員・児童委員がよく連携、利用する相談機関や支援機関は、「市町村社協」が最も多く全体の24・

9%を占めた。次いで「自治会」が16・1%、「地域包括支援センター」が14・7%と続き、「学校」が13・2%、「福祉事務所・行政」が12・6%の結果となった。

これらは、行政区や学区等の地域に密着した機

**福祉ニーズ・課題解決のためにあったらいい、必要だと思える支援策は何ですか。**

複合的な課題への対応で日常的な支援体制、専門機関の活用を要望

民生委員が要望する支援策について聞いたところ、541件の回答が寄せられた。これを分野別に「高齢者」、「児童」、「障害者」、

	件数・割合	課題	支援の方向性	連携先
分野別	高齢者 (43.7%)	安否確認、介護の負担(認知症への対応)	見守り支援や介護・看護の提供	地域包括支援センター、在宅介護支援センター
	児童 (17.4%)	不登校、非行	居場所づくり、学習・見守り支援	ボランティア、自治会、老人会
	障害者 (11.7%)	社会参加、介助負担、緊急・災害時対応	障害者福祉サービス・設備の実施、専門相談機	手話通訳の活用、グループホームの設置
	その他 (27.2%)	急病時の対応、住居の確保	子育てや生活・就労支援	ボランティアや公民館の利用、宿泊事業の実施
機能別	体制 (35.4%)	情報収集が困難、情報交換が少ない	民生委員活動におけるアドバイザーの配置、関係機関との連携・情報交換	ボランティア団体、自治会
	連携 (25.0%)	委員活動に必要な情報(個人情報)が関係機関と共有できていない	情報交換の実施やニーズや支援策をコーディネートする機	社協、行政
	サービス (24.7%)	DV・虐待、ひきこもり、行政の対応	福祉サービスの充実、福祉施設の設置・増設	在宅介護支援センター、公民館
	その他 (14.9%)	若年者への関わり方、ホームレスへの対応、急病時の対応	各種制度の情報提供、福祉マップの活用、友愛訪問等の実施	行政、社協、NPO

「その他」の4つに分類し、いずれにも分類できなかった内容については、機能別の視点から「体制」、「連携」、「サービス」、「その他」の4つに分類した。各項目の割合と内容は左のとおり。

全体的には要支援者の多

くは一人暮らしや生活困窮等の複合的な課題を抱えており、介護の不安や緊急時の対応、支援者の負担軽減等が課題として挙げられる。これらに対応するため

さらに、「DV・虐待」や

関・団体であること、住民から様々な相談が寄せられることが共通点として挙げ

「ひきこもり・ホームレス」等の対応が困難な事例も課題となっており、これらに対しては、「福祉サービスの充実」や「友愛訪問の実施」といったアウトリーチによる支援の必要性が挙げ

**市町村社協、県社協に期待する役割は何ですか。**

「連携」、「体制」強化への期待が高い

「民生委員・児童委員が県社協や市町村社協に期待する役割について感じていることを聞いたところ、454件の回答が寄せられた。これを内容別に「体制に関すること」、「連携に関すること」、「社協への感謝」、「その他」の4つに分類すると、「連携に関すること」が34・1%、「体制に関すること」が31・1%でほぼ同数となった。

られる。また、福祉以外の分野も含めた幅広い機関との連携が見られた。

この他にも、支援活動における課題として「情報収集・共有」が挙げられ、「情報交換の実施」や「アドバイザーやコーディネーターの配置」を求める意見が見られた。

また、民生委員・児童委員に対する相談支援体制の強化や民生委員・児童委員にかかる負担感を少しでも軽減してほしいといった意見も見られた。

この他、「社協への感謝」が21・1%となり、市町村社協が実施している事業を評価する意見等が含まれた。

※調査実施にあたり、ご協力いただいた市町村民児協及び民生委員・児童委員の皆様へ紙面をお借りしてお礼申し上げます。





平成25年度

# 歳末たすけあい募金 配分決定

## 団体

施設名	事業	配分内定額
沖縄県脊髄損傷者協会	交流	100,000
ナカヤ	交流	100,000
那覇市手をつなぐ育成会	交流	100,000
南風原障害者支援センター	交流	100,000
沖縄自閉症児者親の会	研修	100,000
障害福祉サービス事業所 うらそえ工房	備品	100,000
障害福祉サービス事業所 おきなわ工房	備品	100,000
沖縄ダルク	交流	100,000
NPO法人ちゅらゆい コミュット!	備品	83,000
きょうざれん沖縄支部	交流	80,000
沖縄県事業所協議会	交流	100,000
全国心臓病のこどもを守る会 沖縄県支部	交流	100,000
障がい者支援センターふくぎ	交流	100,000
障がい児サポートハウス ohna	交流	100,000
りん・輪 かすりくらぶ	備品	55,000
ミラソル会	備品	100,000
エイブルサポートつばさ	交流	100,000
地域生活支援センター ウェーブ	交流	51,000
北部障害者生活支援センター ハーモニー	備品	94,000
福祉サービス事業所 のびる	備品	100,000
障がい者支援センターてだこ	備品	100,000
ニライの里	交流	100,000
ワークサポートひかり	交流	100,000
ちゅいたれーいだれーい	交流	100,000
ハンディサポートふれんど	交流	100,000
ゆい心	交流	100,000
沖縄県肢体不自由児者父母の会連合会	交流	100,000
沖縄自立生活センターイルカ	交流	100,000
サザンウィンド	備品	100,000
動作法を学ぶ親の会 はづき会	交流	98,000
日本てんかん協会沖縄県支部	交流	85,000
あけぼの	備品	100,000
きら星エイサー隊	交流	100,000
日本網膜色素変性症協会沖縄県支部	研修	100,000
さぼーと・なは	交流	100,000
ゆい・ハート福祉会	交流	80,000
チーム沖縄	備品	76,000
障がい者支援センターぴゅあ	交流	100,000
かすみ草	交流	37,000
ドリームサポートたんぼぼ	交流	100,000
くらしき	備品	100,000
のぞみの里	交流	100,000
全国パーキンソン病友の会沖縄県支部	交流	100,000
地域活動支援センターあだん	交流	96,000
沖縄県友声会	備品	60,000
沖縄県失語症友の会	交流	50,000
沖縄県車椅子陸上クラブ タートルズ	交流	73,000
沖縄県腎臓病協議会	交流	100,000

計 4,418,000円

## 児童養護施設

施設名	事業	配分内定額
美さと児童園	支度費	120,000
なごみ	支度費	40,000
漲水学園	支度費	20,000
島添の丘	支度費	60,000
愛隣園	支度費	40,000
石嶺児童園	支度費	140,000

計 420,000円

## 離島社協

施設名	事業	配分内定額
伊是名村社会福祉協議会	義援金	50,000
伊平屋村社会福祉協議会	義援金	170,000
座間味村社会福祉協議会	義援金	180,000
多良間村社会福祉協議会	義援金	210,000
渡嘉敷村社会福祉協議会	義援金	100,000
渡名喜村社会福祉協議会	義援金	250,000
南大東村社会福祉協議会	義援金	65,000
北大東村社会福祉協議会	義援金	50,000
粟国村社会福祉協議会	義援金	130,000
与那国町社会福祉協議会	義援金	35,000

計 1,240,000円

今年も「みんなできさえあうあったかい地域づくり」をスローガンに実施した歳末たすけあい運動には、大変厳しい社会情勢にもかかわらず、数多くの県民や企業団体から心あたたまる寄附金が寄せられました。

いただいた寄附金は県内48団体への活動助成金、6児童養護施設の児童へ就学及び就職資金、離島10町村社協へ援助を必要とする高齢者や障害者世帯などへの義援金として配分されました。

児童養護施設及び台風被害による、義援金の支援を呼びかけましたところ、心温まる浄財をお寄せいただきました。

義援金の配分は、都道府県共同募金会に設置する義援金配分委員会を取りまとめ、同委員会の決定により被災対象地域へ配分される予定となっております。

沖縄県共同募金会では、下表のとおり義援金を送金しましたので報告します。

たくさんの方の義援金をお寄せいただきました

埼玉県竜巻災害及び埼玉県・京都府台風18号災害		滋賀県台風18号・鹿児島県台風24号・東京都及び千葉県台風26号災害		フィリピン台風30号災害	
埼玉県共同募金会(竜巻)	67,000円	滋賀県共同募金会	116,000円	中央共同募金会	390,966円
埼玉県共同募金会(台風)	67,000円	鹿児島県共同募金会	116,182円	●中央共同募金会から現地の共同募金会「フィリピン社会事業団」へ送金	
京都府共同募金会(台風)	67,044円	東京都共同募金会	116,000円		
		千葉県共同募金会	116,000円		
取扱送金額	201,044円	取扱送金額	464,182円	取扱送金額	390,966円





# 寄附・寄贈者芳名

(12月6日～1月31日)

ご寄附いただき、誠にありがとうございました。  
本会への寄附については税制上の優遇措置がうけられます。詳しくは本会ホームページまたはお電話でお問合せください。

共同募金へ



●(株)サンエー 様

共同募金と  
歳末たすけあいへ



●(株)琉球銀行 様



●(株)沖縄銀行 様

歳末たすけあい募金へ



●メサイア演奏会 様



●具志堅グループ琉鷗会 様



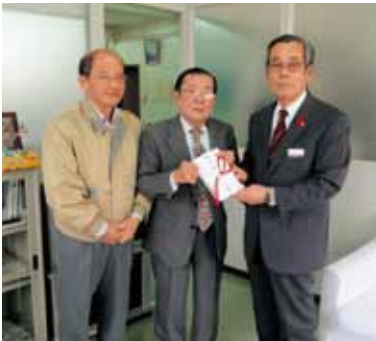
●沖縄製粉(株) 様



●(株)丸大 様



●沖縄銀行労働組合 様



●久米国鼎会 様

## 「健康復活プロジェクト」

「新たな募金手法(ファンドレイジング)の開発に向けた改革モデル事業」

3/15

## 豊見城市でチャリティー芸能公演

従来の募金期間を3ヶ月延長し、中央共同募金会では「いつでも、どこでも、だれからでも」共同募金に寄附のできる環境を作るためのモデル事業を展開している。

本県では豊見城市共同募金委員会が豊見城市社会福祉協議会と協働で「健康復活プロジェクト」事業に着手しており、その一環としてこの度、チャリティー芸能公演が開催される。

収益金は、豊見城市社会福祉センター内にあるリハビリ室の器具をリニューアルに活用され、誰もが住み慣れた地域で健康的かつ生き生きと生活できる地域社会の実現を目指す。



▲チャリティー芸能公演

【場 所】  
豊見城市立中央公民館  
【期 日】  
平成26年3月15日(土)  
【時 間】  
17:30開場／18:00開演  
【入場料】  
前売1,500円 当日1,800円

### 沖縄県共同募金会

電話 098(882)43333

URL <http://www.okishakyo.or.jp/kyoubo/>



# 国外研修にかかる費用の一部を助成

## 国外研修派遣事業 広がる視野と可能性

県社協では、社会福祉従事者としての資質向上と国際的視野を養うことで本県の社会福祉推進に寄与する人材を育成することを目的に、国外研修派遣事業を実施している。対象は、県内の社会福祉施設や社協に従事する職員で、所属する法人（企業を含む）が県社協会員となっており、条件となる。

今年度の募集受付は既に終了し、来年度の応募受付を平成26年4月から開始する予定。詳細が決まり次第、県社協ホームページで案内する。

### 事業概要

#### 【募集対象】

県社協会員の民間社会福祉施設・事業所、社協の職員で法人または施設長の推薦のあった者。ただし、法人役員は除く。役員を兼任する施設長等の職員は対象となる。

#### 【対象となる研修】

国外における社会福祉の

### ハンガリー保育視察・体験研修に参加して

みやび保育園（那覇市） 副主任保育士 島 朋子

今回、初めてハンガリーの保育について学ぶ機会をいただきました。ハンガリーでの乳児保育の細やかな対応には驚きでした。子ども達の目線に立った言葉かけ、一対一の対応、保育士の表情を見て、プロとしての自信と仕事に対する

先進地視察、研修。国外留学や国外インターンシップは対象外。民間旅行会社が企画・実施する福祉研修目的のツアーも対象となる。ソウエルクラブ主催の研修旅行も利用可能。

【助成額】  
旅費の2分の1以内（ただし、1人あたりの助成額は上限25万円）

【助成対象となる費用】  
国外研修に係る旅費（交通費、宿泊費、燃油サーチャージ代、空港利用料等）

#### 【助成対象外の費用】

パスポート取得経費、旅行傷害保険料、オプショナルツアー代金、電話料金等の個人的費用、その他

#### 【応募から交付まで】

本会が指定する提出書類にて研修内容や使途計画等を提出する。応募受付から1か月以内に本会から審査結果を通知する。その際、助成金を概算払いにて交付する。研修旅行終了後、研修内容と使途報告と併せて、助成額の精算を行う。

左は昨年、ハンガリーでの研修に参加した島朋子さんのレポートです。



▲5歳児を中心とした設定保育

今回、初めてハンガリーの保育について学ぶ機会をいただきました。ハンガリーでの乳児保育の細やかな対応には驚きでした。子ども達の目線に立った言葉かけ、一対一の対応、保育士の表情を見て、プロとしての自信と仕事に対する

る誇りが感じられました。日本と違い、若い保育士の姿はほとんどなく、経験年数20年以上の先生方が保育にあたっていて落ち着いた



▲落ち着いた雰囲気の中での食事

雰囲気の流れていました。乳児保育園では担当制を採用し、3年間同じ担任のもとで過ごす子どもたちは安心感が得られ、保育士も子どもたちのことをよく知ることができます。それがハンガリーの保育テーマでもある「子どもの人格を育てる」につながっていくのだと思います。

また、印象に残っていることは、保育士が専門的な知識を常に学び続けていることです。ハンガリーでは年間の研修時間が決められていて研修に参加しない保育士には役所から指導が入るほか、保護者からの評価も行われているようです。保育士は常にハンガリーの保育指針に基づいて行動し、「子どもを育てるプロとしてどうあるべきか」を



▲子どもと1対1の時間

※実績報告書より一部抜粋。  
期間 平成25年11月16日～11月24日（9日間）

意識していることに感動しました。  
質疑応答の際、配慮が必要な子への対応や考え方がうかがうと、「個性として捉えるのではなく、一人の人として接している」との答えが返ってきました。日本とハンガリーの感覚の違いを感じるとともに、これまでの自分を振り返って、その感覚に衝撃を受けました。

ハンガリーとの違いを通して自分自身を見つめ直す良い機会を作ることができました。この経験を踏まえてもっと学びを深め、少しでも保育園の子ども達に伝えていけたらと思います。

若者の自立をトータルに支援  
「NPO法人サポート  
センターゆめさき(沖縄市)」

沖縄市にある「NPO法人サポートセンターゆめさき」(上江田紫寿江代表)では、不登校の児童から若者の就労まで幅広くサポートする活動を行っている。

上江田さんは約30年前から不登校の児童を自宅で受入れ、支援活動を行ってきた。当時、不登校は個人や家庭に原因があるとされ、公的な支援等はなく、上江田さんは私財をなげうって活動を続けた。ある時期は、合宿型の訓練プログラムを実施し、延べ200名の若者と生活を共にしたことも。近年、ニートや引きこもりが社会問題化する中、ようやく若者の自立支援に注目が集まるようになってきた。

「困難を抱えている子ども達や若者達には、社会の中に居場所を作ってあげることが大切」と上江田さんは指摘する。不登校児への支援が卒業を機に途切れてしまわないよう、「夢咲学園」という通信制の高校を立ち上げ、進学を希望する児童の居場所を設けた。夢咲学園には県立高校からの編入も受

け入れ、高卒資格の取得とあわせて、就労体験にも力を入れていく。

また、市や県から若者の就労支援を目的とする事業を受託し、就労に関する相談や職業訓練、関係機関との連携に力を入れ、多くの若者を就職に導くなど、大きな成果を上げている。

この他にも、児童デイサービスを開設して障害児の受け入れを行うなど、児童や若者を取り巻く課題に対応しながら活動の幅を広げてきた。

上江田さんは「サービスの網からこぼれ落ちて、地域で支える受け皿が必要。これからも地域と連携し、社会資源を組み合わせることで支援の輪を広げたい」と語る。不登校やニート、引きこもりが県全体に広がりを見せる中、ゆめさきの挑戦は大きなヒントを示している。



▲熱心に子どもたちの声に耳を傾ける上江田紫寿江代表(写真左)

<http://www.fukushihoken.co.jp>  
ふくしの保険 検索 保険料試算ができます

全社協 保育所のためのしせつの損害補償

有利な補償と割安な保険料です

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している認可保育所です。

プラン1 保育所業務のための補償

- ①基本補償
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- ②個人情報漏えい対応補償
- ③保育所の什器・備品損害補償

必要な補償を3つのプランでご用意しました

プラン2 保育所利用者のための補償

- ②園児の傷害事故補償
- ③園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 保育所職員のための補償

- ①保育所の労災上乗せ補償
- ②保育所職員の傷害事故補償
- ③保育所職員の感染症罹患事故補償

プラン1-①		補償額	年額保険料	
賠償事故に対応	対人賠償(1名・1事故)	1億・7億円	園児1~50人	17,300~22,700円
	対物賠償(1事故)	1,000万円	園児51~100人	23,900~29,300円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	園児101人~150人	30,500~35,300円
	うち 現金補償限度額(期間中)	20万円	加入例	
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	園児50人	保険料22,700円
	初期対応費用(期間中)	500万円	園児100人	保険料29,300円
お見舞い費用	見舞費用(期間中)	10万円		

プラン2-②	補償額(1口あたり)	年間保険料	
死亡保険金	103万円	1名/1口あたり	530円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の3~100%	加入例(1口加入)	
入院保険金(1日あたり)	800円	園児60人	31,800円
手術保険金	8,000円・16,000円・32,000円	園児80人	42,400円
通院保険金(1日あたり)	500円	園児100人	53,000円

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763



## 地域に根差した地域包括支援体制づくりを考える

〈第5回かりゆし地域福祉実践セミナー〉

県社協では2月5日、県総合福祉センターにて、「第5回かりゆし地域福祉実践セミナー」を開催し、市町村社協職員や地域包括・在宅介護支援センター職員、民生委員など220名が参加した。

はじめに、日本地域福祉研究所の大橋謙策理事長より「地域に根差した地域包括支援体制づくり〜公的サービスとインフォーマルサービスの協働〜」と題した講演があった。

大橋氏は、コミュニティソーシャルワークの一つとして「地域包括支援体制の確立」を挙げ、制度的サービスに近隣住民による「近所の底力」を結びつける



▲講演を行う大橋謙策氏



▲実践報告を行うシンポジスト

機能があると説明。併せて、地域住民の「生活のしづらさ」のニーズをしつかりと受け止め、支援へとつなげるワンストップ相談システムの重要性を訴えた。その後、「互いを知ろう！医療と福祉と地域の声」のテーマのもと、沖縄大学の上地武昭教授をコーディネーターにシンポジウムが行われ、地域住民、社協、地域包括支援センター、医師会よりそれぞれの地域支援に関する取組みについて報告があった。

報告を受け、大橋氏は連携システムを構築するにあたり、①地域住民、②医療・看護・保健、③教育、④司法（成年後見等）、⑤

## 今後の社協活動の方向性を討議

市町村社協常務理事・事務局長会議に55名参加

県社協では1月29日、県総合福祉センターにて「市町村社協常務理事・事務局長会議」を開催し、34社協から55名が参加した。

この会議は、地域を基盤にした孤立防止や生活困窮者支援を図るために、地域の多様な関係者とのネットワークを活かした課題解決の仕組みづくりに向け、今後の社協活動の方向性等を考えることを目的に開催された。

はじめに、県社協・地域福祉部より「社協活動の今後の方向性」と題した基調報告、「市町村社協財政見

福祉用具の5つのベクトルについて説明し、福祉関係者だけでなくあらゆる関係者が互いにつながっていくことの重要性について参加者と共有した。

参加者からは、「地域の特性を活かしながら関係者同士知恵を出し合い、支え合いを作りあげていくことの大切さを学んだ」といった意見が寄せられた。

込みアンケート」及び「市町村社協と地域包括・在宅介護支援センターとの連携状況に係る実態調査」の各結果報告があった。また、総務企画部からは新会計基準移行に向けての対応状況等について説明された。

続いて、滋賀県高島市社協・地域福祉課の井岡仁志課長より「社協・生活支援活動強化方針の具体化に向けた高島市社協の地域福祉実践」と題した基調講演が行われた。

井岡氏からは、強化方針を踏まえた滋賀県内社協の取り組みをはじめ、福祉施

### 【シンポジスト紹介】

▼地域住民（宜野湾市長 田区地域支え合い活動委員会委員長 富濱宗俊氏）  
▼社協（糸満市社協ボランティアコアコーディネーター大城ゆかり氏）  
▼地域包括（久米島町地域包括支援センター保健師吉永浩氏）  
▼医師会（浦添市医師会浦添市在宅医療ネットワーク代表世話人大濱篤氏）



▲講師の滋賀県高島市社協 井岡仁志氏

策の重要課題である生活困窮者支援や自治会を基盤とする福祉推進委員会活動への社協の関わり方等についての説明がなされた。

この後、強化方針を踏まえた各社協の取り組み状況等について、活発なグループ討議が行われ、総合相談窓口機能の強化や制度外ニーズへの解決に向けた自治会等との協働の必要性等について共通認識を深めることができた。

また、昨年6月に締結された「沖縄県内社協災害時相互応援協定」に基づく事務局長連絡会も併せて開催され、地区社連及び市町村社協における災害への取り組み状況調査の結果報告、今年度の県社協の取り組み経過や次年度の方針の説明、質疑応答等が行われた。



# 地域包括支援体制の構築に向けて

## 市町村社協と地域包括支援センター等との連携強化を図る

県社協では12月6日、「県社協コミュニケーションソーシャルワーク研究会と県地域包括・在宅介護支援センター協議会との意見交換会」を実施した。

### 調査から見えてきた課題を共有

この会議は、地域包括支援体制の確立に向け、社協が推進するコミュニケーションソーシャルワーク実践や小地域福祉活動と地域包括・在宅介護支援センター（以下、包括等）が進める地域包括ケア体制づくりを連携・協働させていくことを目的とするもので、初めての試みとなる。



▲活発に意見交換を行う参加者

まず、市町村社協と包括

等との連携状況に係る調査から見えてきた課題について、静岡福祉大学の西尾敦史教授と県社協地域福祉部の久根次薫副部长から報告があった。

その中で、社協からは、「包括等には困難事例や多問題家族への支援の際に、行政間のつなぎや調整機能を發揮してほしい」という意見が出され、包括等からは、「社協には地域づくりの推進やボランティア育成に努めてほしい」という意見があったことが報告された。

### 社協・包括等のそれぞれの強みを活かす

次に、かみざと社会福祉研究所の神里博武氏より市町村社協におけるコミュニケーションソーシャルワークの実践について報告が行われた。

続いて、神里氏をコーディネーターに、うるま市社協の山田涼子氏、うるま市包括の土地淑江氏、うる

## 3社協に福祉車両 24時間TVチャリティ募金



▲西原町社協

2月6日、沖繩テレビ放送(株)で「第36回24時間テレビ福祉車両贈呈式」が行われ、沖繩テレビ放送(株)の町田宗浩代表取締役社長より、西原町社協・沖繩市社協・糸満

市社協の3社協に福祉車両が贈られた。

リフト付きバスの寄贈を受けた西原町社協の新川善昭会長は「就労継続支援事業所の活動をはじめとした事業に福祉車両を活用したい」とあいさつ。

スロープ付軽自動車の寄贈を受けた沖繩市社協の嘉陽宗吉会長は、「安心・安全な生活しやすい街づくりを目指して福祉車両を活用したい」とお礼を述べた。

また、「障害者生活支援センター陽だまり」を運営する糸満市社協の上原健市



▲沖繩市社協

会長は「支え合っている社会のために福祉車両を活用しながら一層頑張りたい」と抱負を語った。毎年行われる「24時間テレビチャリティ募金」で全国から寄せられた寄付により今回を含めて99台の福祉車両が県内の福祉施設・団体等へ寄贈され、地域の高齢者や障害者の社会参加の促進に役立てられている。



▲糸満市社協

ま市高齢者相談センター具志川きた(包括のブランチャ型センター)の宜名真智美氏から、実践事例をもとに、要支援者及び地域への支援における相互の役割分担等について報告がなされた。

その中で、住民による見守り活動等を中心に地域支援を担う社協と、公的な

サービスへつなぎ、要支援者やその家族を中心に個別支援を担う包括・ブランチャのそれぞれの得意分野を活かした連携・協働のあり方が事例紹介された。

その後の意見交換会では、「相互の業務内容等を理解し、役割分担を明確化するためにも、定期的な情

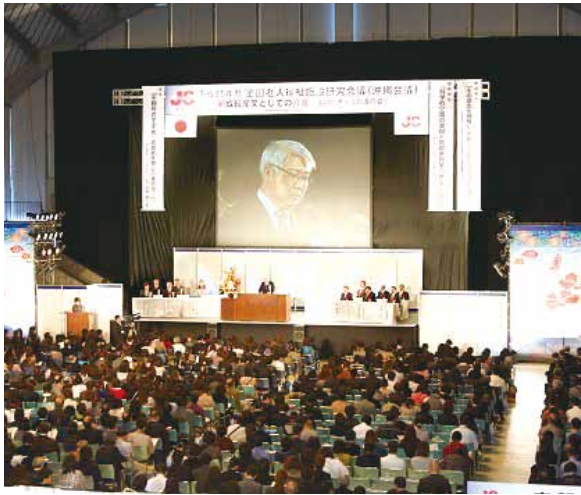
報共有の場が必要」、「自分の地域でどのように連携できるのかヒントを得た。まずは顔の見える関係作りから始めたい」との声が上がった。

県社協では引き続き多職種連携・協働を基調とした地域包括支援体制づくりの推進に向け研究を進めていく。

## 全国老人福祉施設研究会 (沖縄会議)に2000名が参加

全国老人福祉施設協議会と沖縄県老人福祉施設協議会は12月18日、19日の2日間、「全国老人福祉施設研究会会議（沖縄会議）」を那覇市と宜野湾市において開催した。「新成長産業としての介護」をテーマに全国から老人福祉関係者2000名が参加した。

初日の基調報告では、全国老協・介護保険事業等経営委員長の梶田和平氏



▶沖縄コンベンションセンターで行われた全体会の様子

が、国の進める介護保険制度改革のポイントを説明した。その中で、地域包括ケアシステムについて「特養が地域の拠点となる前提として、施設の専門職員が地域のコーディネーター役を担っていくべきである」と述べ、社会福祉法人が社会活動や地域貢献活動へ積極的に取り組むよう訴えた。

また、記念講演では、特別養護老人ホーム芦花ホーム医師の石飛幸三氏が、

「平穏死のすすめ」高年齢者医療と介護の今」をテーマに講演。胃ろう等の過度な延命治療をしない「平穏死」を推奨し、看取りについて「大切なのは死の間でなく、入所者がどう生きたか、家族とどう関わってきたか、それが最後に結実する」と強調した。

2日目は、6つの分科会で合計150件の実践研究発表が

## 県指定自動車学校協会 社会的養護が必要な児童の運転免許取得費10万円を免除

県と県内21の指定教習所が加盟する県指定自動車学校協会（小渡亨会長）は、児童養護施設や里親家庭・ファミリーホームで生活する児童の自立を支援することを目的に普通自動車運転免許の取得費用の一部を免除する協定を結んだ。

これにより、就職に必要な自動車運転免許の取得にあり、実践を通して見えてきた課題の解決や先進的取り組み事例が紹介された。

沖縄県からは社会福祉法人立命会「グループホームしらゆり」介護福祉士の呉屋差也乃さんが「認知症ケアの実践」をテーマとする分散会で事例発表し、見事、優秀賞を受賞した。

呉屋さんは、下剤や眠剤に頼らずに「水分・食事・排泄・運動」の4つのケアを中心とした生活支援のほか、認知症改善・予防に向けた「役割づくり」や「学習療法」等の実践により利用者の認知症が改善した取り組みを報告した。

## H26年度から

かかる児童の負担軽減が図られ、免許取得の機会拡大と自立支援のさらなる充実が期待される。

社会的養護が必要な児童の運転免許取得支援については、県社会福祉協議会・予算対策協議会（新垣雄久会長）を通じて長年実現を求めてきており、今回の協定締結は大きな前進となる。

2月4日、県庁で開かれた調印式の中で、崎山八郎県福祉保健部長は「子ども達は免許取得費用を工面するためにアルバイトに多くの時間をとられ、学力低下を招いたり、費用がまかなえずに取得を断念する子ども

がいる。できる限り一般家庭と公平なスタートラインから社会に自立していけるよう、機会の充実を図ることが重要であり、深く感謝したい」とあいさつ。

自動車学校協会の小渡会長は「2年前に県から要請を受けて協会でも話し合ってきた。社会的養護の必要な子ども達に対して支援することが使命ではないかと全会一致で協力を決めた。ぜひ、活用してほしい」と述べた。

同席した県児童養護協議会の玉城孝会長は「沖縄では就職や進学に運転免許が欠かせない。今回の支援を活用することで多くの子ども達の職業選択の幅が広がるなど児童の自立に向けた大きな後ろ盾になる」とお礼を述べた。

免除を受けるには、児童養護施設の施設長や里親等が県を経由して協会へ申請、協会は自動車教習所を選定して施設長らへ通知する。児童は指定された教習所での運転免許取得費用のうち10万円が免除される。協定は平成26年4月1日から施行される。



## 県民生委員児童委員協議会 新役員就任のお知らせ

12月20日、民生委員・児童委員の  
一斉改選後初めて開かれた県民児協  
総会において新役員が選任された。

宮國泰雄顧問、藏當博文会長、我  
部政義副会長の再任のほか、副会長  
3氏の交代があった。新役員の任期  
は平成28年12  
月まで。



2月4日に  
は新役員が県  
社協の新垣雄  
久会長を訪  
れ、地域福祉  
活動の推進に  
ついて、今後  
も連携して取

## 民生委員児童委員研修

県民児協では、民生委員として活  
動をするうえで必要となる基本的な  
心得や基礎的知識・技術を習得する  
ことを目的に県内5つの地区で研修  
会を県社協と共催で開催した。

新任の民生委員・児童委員を対  
象に開催された今回の研修会では、  
講師に沖縄大学の富樫八郎教  
授を迎え、講義・演習を通じて民  
生委員活動に必要な知識と援助方  
法について学んだ。



▲基本的な心構え、基礎知識について学ぶ新任の  
民生委員・児童委員

り組むことなどを確認した。

新役員(再任含む)

※カッコ内は選出地区

顧問 宮國 泰雄

会長 藏當 博文(全県)

副会長 比嘉 敬吾(北部)

副会長 我部 政義(中部)

副会長 玉城 恒夫(南部)

副会長 新城ヒロ子(那覇)

退任

副会長 長堂タツ子(北部)

副会長 呉屋 影正(南部)

副会長 眞榮城嘉政(那覇)

これまで副会長としてご尽力  
いただきました長堂様、呉屋  
様、眞榮城様には心よりお礼申  
し上げます。

募集中

# 生活支援員になりませんか

(日常生活自立支援事業)

高齢者や障害のある方で自分で判断  
することが困難な方々の市役所や銀  
行での手続きや支払いのお手伝いを  
行います。

## お仕事の主な内容

具体的な活動は以下のようなものです。

- ・公共料金や病院代の支払いを本人と一緒に(または、代わりに)に行う。
- ・役所や郵便局などで行う手続きの説明や、本人が行う手続きに付き添う。
- ・本人とのコミュニケーションを通じて、相談や要望を聞く。
- ・相談、要望に応じて、本人が自身で判断できるようなアドバイス・情報提供をする。



※お住いの市町村社協にご相談ください。

# 第5回 沖縄ねんりんピック かりゆし美術展



高齢者の芸術文化活動を通じた社会参加の促進を目的として、「第5回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」が1月8日から13日まで沖縄県立博物館・美術館で開催された。会場には日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門で昨年を上回る296点が展示された。

初日のオープニングセレモニーでは、沖縄県知事あいさつ（代読・崎山八郎県福祉保健部部长）と最高齢出品者を含めたテーブルカットが行われた。



▲前列右から2人目が県知事賞の深見汎氏



▲オープニングのテープカット

## 県知事賞受賞作品

厳選な審査の結果、沖縄県知事賞に日本画の部門から深見汎氏（那覇市）の組踊「執心鐘入」が選ばれた。

表彰式では、沖縄県知事賞、金賞などの各受賞者へ表彰状が授与されたほか、昨年高知県で開催した全国健康福祉祭美術展の一般財団法人長寿社会開発センター会長賞の伝達表彰が行われた。また、今年から全6部門にて開催したギャラリーにて開催した。



▲ギャラリートーク

トークでは、審査員による解説や作品出品者による作品制作の意図の説明があり、多くの来場者が熱心に耳を傾け、今後の作品づくりの参考となった。

今回受賞した各部門の上位2作品は、今年栃木県で開催される第27回全国健康福祉祭とちぎ大会美術展へ県代表として出品する予定。



- 【日本画の部】金賞 栄門昌秀「母を偲んで蓮の花」、銀賞 白金直「いつか来た道」、銅賞 比嘉勝子「久茂地川の見える風景」、城間悦子「鼓動」、照屋正元「根性」、かりゆし賞 山田千代子「キャベツ」、奨励賞 親川浩「スーマンポース（小満芒種）」、新城啓八「幽界の門三庫理」、洋画の部 金賞 名嘉原盛吉「伊是名」、銀賞 金城幸孝「ギーザバンタ（慶座絶壁）」、新垣幸江「実のり」、銅賞 比嘉巴「ふるさと」、古謝博子「旧跡」、砂川恵徳「夏日爽やか」、かりゆし賞 大村澄子「ヨットハーバー」、奨励賞 古謝昌子「フブガアのせせらぎ」、名嘉地義昭「時の流れに」、古謝廣「シワブキ」、工芸の部 金賞 大城清善「茶櫃象谷塗り6点セット」、銀賞 比嘉正徳「魚群」、津波静子「螺鈿乾胎乾漆花器」、銅賞 早川永子「傘たて」、栗国安信「ガンジュー笑みシーサー」、比嘉賢輝「金閣寺」、かりゆし賞 米須清敬「六論」、奨励賞 池宮城米子「吊り引出し（浮き彫り）」、當銘春子「楽しく手をたたきましょう」、書の部 金賞 伊波エツ子「李商隠詩」、銀賞 森根和子「唐詩（常建）」、島袋光子「峨眉山月歌他二首」、銅賞 高良峻一賞「琉球漢詩」、上間智子「争坐位文稿臨書」、神山直子「陶淵明詩」、かりゆし賞 照屋寛榮「客散茶甘」、奨励賞 照屋盛順（恵峰）「蘭相如、豎明有感、夜至陽城田家」、宮城圭子「蔡大鼎詩」、與那覇初子「李白詩」、写真の部 金賞 村田勲「無関心」、銀賞 仲原功「技有り」、福盛庸夫「休み」、銅賞 銘苅節子「影武者」、安田幸子「風が吹く」、かりゆし賞 田松永「こよなく愛する琉球の風味」、奨励賞 大城俊雄「愛飛行」、新垣善吉「小さな来客」、彫刻の部 銅賞 山川宗和「透かし彫りアダシ」、かりゆし賞 安藤國利「十二支時計」、奨励賞 西平清志「労働者」、漢那憲次「笑福来」、全国伝達表彰 長寿社会開発センター会長賞 大城文子（工芸）「乾漆葉盆（糸芭蕉）」、銅賞 金城睦雄（洋画）「廃屋のシーサー」



## かりゆし長寿大学校 卒業後の地域活動に向けて



▲地域文化学科

1月28日、沖縄県かりゆし長寿大学校では「地域活動に向けて」の講義を実施、卒業後、地域活動の担い手としてどのような活動ができるのかについてグループ発表を行った。発表に先立ち、12月に3つの学科ごとに話し合いをもった。その中で、これまで取り組んだ地域活動やボランティア活動について意見を出し合った後、卒業後、個人や学科として何ができるのかについて議論した。

「自治会や婦人会、郷友会などに加入して、その中で積極的

に活動したい」、「学科としてカリキュラムの中で学んだことをどう活かせるのか」といった様々な意見が出された。

### 【健康福祉学科】

個人として、自治会や老人クラブへの加入をはじめ、市町村社協へボランティア登録し、講座で学んだことを活かす活動を行う。

個人として、特技や経験を活かし、歴史文化のガイドや語り部としての活動、自治会へ加入後自らアピールし参加を促す。

### 【地域文化学科】

個人として、特技や経験を活かし、歴史文化のガイドや語り部としての活動、自治会へ加入後自らアピールし参加を促す。

個人として、自治会や老人クラブへの加入をはじめ、市町村社協へボランティア登録し、講座で学んだことを活かす活動を行う。



▲生活環境学科

カリキュラムで学んだサイクルエコ活動を実施する。「できることを、できるときに、できることから始めよう」をテーマに相互に無理なく始めていく。県・市町村社協へボランティア登録する。NPO法人の成

### 【生活環境学科】



▲健康福祉学科

り立ちを講座で学び、参考にする。講義終了後、生徒からは、「これからの地域活動の参考にしたい」といった声が



▲ラダーゲッターを体験する参加者

県社協・いきいき長寿センターでは12月16日、読谷村社協と共催で「ニユースポーツ指導者養成講座（中部地区）」を開催した。この講座はニユースポーツを指導できる人材育成を目的として開催されたもので、ニユースポーツの概要や歴史に関する知識をはじめ、ニユースポーツを地域で実践する際の工夫や指導方法について学んだ。

## ニユースポーツ指導者養成講座(中部地区) 読谷村勤労体育センターにて開催



▲パタンクを実践する参加者

聞かれた。県社協では今後も卒業生・在学生の地域活動を支援するとともに、卒業後に地域活動につながるような講義を取り入れていくこととしている。

講座後の参加者からは、「とても楽しめた。地域のボランティア活動などの中で活用していきたい」との感想が聞かれた。

実技の学習では、用具ごとに3つのチームに分かれ、実践練習を行った。練習ではチームの採点を率先して行ったり、他の参加者に指導やアドバイスをを行うなど、積極的に受講する姿が見られた。

く「接遇・コミュニケーション・より良い職場づくり」  
**「社会福祉施設・事業所の資質向上につながるスキルアップ研修」**

12月2日、県総合福祉センターにおいて「社会福祉施設・事業所の資質向上につながるスキルアップ研修」を開催した。この研修は、県内の社会福祉施設・事業所等の職員を対象に実施したもので、142名が参加した。

女性ライフサイクル研究所予防啓発スタッフの森崎和代氏、津村薫氏が講師を務め、利用者への接遇、職員間のコミュニケーションスキル、メンタルヘルスなどについて学んだ。

**講義①**  
**「より良い支援のため  
 の接遇とコミュニケーション」**



講師：森崎 和代氏

接遇を心掛ける時の5原則を「①あいさつ、②身だしなみ、③態度、④表情、⑤ことばづかい」としたうえで、接遇に最も大切なことは『あなたが大切です』という思いが伝わることでありと強調した。

また、コミュニケーションでは「聴く」ことが

**講義②**  
**「より良い職場づくり  
 のポイントと職場の  
 メンタルヘルス」**



講師：津村 薫氏

最も重要かつ実践的な支援の方法であるとし、日頃のコミュニケーションが信頼関係を築き、より良い支援につながっていくと話した。

より良い職場づくりに  
 は、職場のメンタルヘルスの向上が重要であり、メンタルヘルス対策が充実し

ている組織は、業績アップの可能性が高いと強調した。

また、メンタルヘルス対策の一つとして「職業性ストレッサー」を挙げ、職業内容によって生じるストレス要因を理解し、改善を図ることで、メンタルヘルスが向上すると述べた。

**グループ  
 ワーク**  
**「より良い支援・より  
 良い職場づくりにつ  
 いて考える」**

グループワークでは日頃の業務を振り返り、「支援の質をアップさせる要因」「ダウンさせる要因」について意見を出し合い共有することで、仕事への意欲向上を図った。

**★参加者からの声★**

- ◎コミュニケーションとメンタルヘルスの必要性と方法が理解できた。
- ◎良い職場づくりのヒントがもらえた。
- ◎先生方のユーモアな講義でリフレッシュできた。

**介護講座地域指導者養成研修  
 ～18名に修了証～**

県社協介護実習・普及センターでは、本部町社協今帰仁村社協の共催及び伊江村社協、伊是名村社協の協力のもと各町村内にある介護事業所で3年以上働く介護職員（介護福祉士有資格者）を対象に「地域指導者養成研修」を実施した。

この研修は、介護が必要な方が安心して地域で暮らせる環境づくりに向け、各地で地域介護教室が開催できるよう、その指導者を養成するもの。各市町村社協と連携して、地域に在りまたは勤務する介護従事者を受講対象とした。

今回は、6月から11月までの毎月1回、計6回の課程で行われ、18名が修了証を手にした。

今後は、地元の町村介護教室の講師として活躍することが期待される。

研修では、地域の介護講座で指導する「腰痛予防体



▲全課程を修了した参加者（11/29 本部町地域福祉センター）

操、「介護技術」について習得したうえで、指導・教授に視点を置いた「模擬講座」の演習を通して実践力を身につけた。研修を通して「受講生に伝えるぞ」という熱い思いと「自分が講師になるんだ」という意識が芽生え、参加者それぞれが切磋琢磨する研修となった。

全課程を修了した受講生からは、「初めはどうなるかと思っただけ、他の受講生と一緒に最後まで頑張ることができた」「つながりができて良かった。これからは自己研鑽したい」などの声が聞かれた。



福祉人材研修センターでは、福祉の仕事への理解や介護の日の普及啓発を目的に、小中学生を対象とした「福祉・介護関連講話」を実施し、その魅力を伝える取り組みを進めている。

ここ数年、全国的に介護福祉士を養成する大学や専門学校が志願者が定員を大きく割り込むなど福祉業界における人材確保が大きな課題となっている。「福祉の仕事は大変だ」と思っていた（講話の感想より）という、マイナスのイメージをもたれがちな福祉・介護の仕事だが、生まれてから死ぬまでの人生に寄り添って支えるという「他の仕事にはない」やりがいや魅力がある仕事ともいえる。

実際に福祉従事者へ話を聞くと、子どもの頃に障害のある友達と接した経験やボランティア体験がきっかけで福祉職への関心が高まった例も多いことから、学齢期の福祉体験が将来の福祉人材の担い



▲活発に質問する生徒たち (11/28 松島小5年)

手確保につながる可能性を秘めている。

福祉・介護関連講話は、これまで県内の12の小中学校で実施し、介護・実習普及センターが行う高齢者疑

似体験や車いす体験との合同開催や、グッジョブおきなわ推進事務局の「未来の産業人材育成モデル事業」とタイアップして行っている。

「未来の産業人材育成モデル事業」とのタイアップ

豊崎小学校では、4業界（観光・建設・情報関連・医療福祉）合同の講話が行われた。生徒自身が聞いた話を選択するスタイルで実施され、「福祉」へも多くの生徒が訪れた。生徒から

は「福祉の仕事は人を幸せにする仕事だと思った」、「福祉は介護の仕事だけだ」と思っていたけど、色々な仕事があるのだとわかった」、「福祉の職場で働いている人を見て笑顔で接しているすごいと思った」などの声があり、「将来福祉の仕事に就きたいですか?」という質問にも多くの手が挙がった。

福祉業界の人材確保を進めていくためには労働条件の改善等を含め様々な取組みが必要となるが、人材不足に悩む業界の現状を変え

ていけるように小学生の時からポジティブなイメージを持つことで、将来の進路を考えるきっかけになることも期待される。

本県の学校現場でも「未来の産業人材育成モデル事業」のようにキャリア教育の一環としてさまざまな業種の職業人から直接話を聞く取組みも始まっている。福祉人材研修センターでは、今後も小中学校のキャリア教育の取組みへの支援を通して、福祉の仕事の紹介やその魅力を伝えることとしていく。

介護福祉士等修学資金貸付内容を拡充!

県社協では、平成21年度から介護福祉士等修学資金貸付事業を行っており、これまでに151件、総額2億1千万円余の貸付を行っている。

この事業は、「福祉・介護の現場で活躍したい!」という方の進学・資格取得をサポートするもので、県内の介護福祉士・社会福祉士養成施設に在学する学生及び入学希望者を対象に学費や入学準備金、就職準備金の資金を貸付けることで、就学を容易にし、質の高い福祉・介護分野の人材の養成確保に寄与することを目的としている。

養成施設を卒業後、介護福祉士・社会福祉士の資格を取得し、指定された福祉業務に5年間従事することにより貸付金が返還免除となる。

この度の改正では次の点で貸付内容が拡充された。

- 生活保護受給世帯やこれに準ずる経済状況にある世帯の貸付対象者への生活費加算の創設
- 平成28年度から介護福祉士国家試験で必修となる「実務者研修」受講者への貸付が可能に

ただし、貸付対象者の要件として、高校での学業が優秀であり、家庭の経済状況等から真に貸付が必要と認められる者で、養成施設等の推薦等が必要となる。詳細については、沖縄県社協・福祉人材研修センターにお問い合わせください。

【連絡先】  
**沖縄県福祉人材研修センター**  
**☎098(882)5703**

本紙は沖縄県社協ウェブサイトをさらに充実させていただきます

本紙「福祉情報おきなわ」は沖縄県社協ウェブサイトでもご覧いただけます。ウェブサイトのトップページにある「福祉情報おきなわ」のバナーをクリックすると、サイト内の紹介ページへ移動します。



「福祉情報おきなわ」紹介ページURL  
<http://www.okishakyo.or.jp/html/fjoki/>

ウェブサイトでは過去10年分のバックナンバーの全ての記事がPDFファイルで公開されているほか、以前の記事についてもダイジェスト版が閲覧可能となっています。

～社会福祉ライブラリーから本の紹介～

『セーフティネット  
 ～コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の現場～』



【原作・文】  
 豊中市社会福祉協議会  
 【発行】  
 プリコラージュ  
 【出版年月】  
 2012年3月  
 【定 価】  
 840円  
 (本体800円+税)

「社会的孤立」の事例について、マンガでわかりやすく描かれている1冊。

事例についてマンガで説明されているだけでなく、事例のポイントとしてコミュニティソーシャルワーカーがどのような意図で行動しているのかについてもまとめられています。

制度の狭間、無縁社会、社会的孤立、社会包括などの課題の対応について、いま求められている援助方法として話題になっている本です。

※豊中市社協のCSWをモデルにしたドラマが、4月8日(火)からNHKで始まります。

- 平尾直昭様
  - 有銘千鶴子様
  - 比嘉義隆様
  - おきでんグループポランティア互助会様
  - 日本生命互助会社労働組
- ご寄付いただき、誠にありがとうございました。

さらに毎号の「特集記事」や連載記事「シリーズ活動最前線」は目次のリストボタンからタイトルを選んで閲覧することもできます。

寄付・寄贈者芳名  
 (12月1日～1月31日)

「活動最前線」の取材を通して若者の自立支援は少子化対策と同様、将来の社会の支え手となる人材を確保す

編集後記

※本会への寄付については税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは県社協・総務企画部まで。



●オリオンビール株式会社様



●沖縄ツーリスト四金会様

- 合那覇支部様
- (社)沖縄県軍用地等地主会連合会様
- (公社)沖縄県宅地建物取引業協会

るといふ点で非常に重要なテーマであり、社会全体で対応すべき課題だと感じました。(伊良皆)

「構図のイメージは最初からあった」と話すところ、豊見城市の与根漁港で撮影した一枚は、真っ赤な丸い夕日に照らされる陸・海・空それぞれのモチーフが絶妙なバランスで収められている。3年越しに手に入れたベストショットは、かりゆし美術展で銅賞に輝いた。

勝連さんは、現在も外出先で撮影を楽しんでいる。

作品名「夕日のシルエット」



撮影者：勝連栄公さん

表表の写真